

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第69号
2018年1月15日

年頭所感（ご挨拶）

日本看護歴史学会理事長 佐々木秀美



佐々木秀美理事長

年頭にあたり初春のご挨拶を申し上げます。

昨年、理事選挙が行われ、半数ほどの理事の交代の中で新理事の互選があり、私、佐々木秀美が未熟ながら新理事長に就任いたしました。昨年度の川嶋みどり理事長のご挨拶文を読ませていただきながら、又、これまでの先生のご活躍と業績を鑑みながら、後任であります私の理事長職就任に重荷を感じておりますが、私なりの努力と誠意と情熱で頑張りたいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本看護歴史学会（Japan Society of Nursing History）は、看護に関する歴史の新たな方向性と可能性を求め、広く看護歴史を考究することを目的としています。歴史研究は“古きを訪ねて新しきを知る”であります。つまり、それは“温故知新”であります。

川嶋先生が年頭所感で論じておられました“看護師の特定行為の研修”制度問題で「これまで絶対的医行為として、看護師が手を染めなかった領域の仕事を可能にする研修を歓迎してよいものかどうか」という新たな課題提示や、昨年度の第31回学術集会で大いに議論を醸した「准看制度」問題は、「医行為」と「看護行為」はそれぞれに独自の機能を有するがゆえに、協働という立場はあっても、常に補助者としての行為としての位置づけでは、看護専門職的位置づけに

は成り得ないという点での十分に論議しつくさねばならない問題でありましょう。他方、学術（Academic）の持つ意味を考えた場合、看護が学問であるかどうかの議論がなされた歴史的事実（Historical facts）も見逃せない問題でもありましょう。現実社会を見渡せば看護界で起きている問題は山積みしています。

歴史を振り返るのは人間の主体的な行為であり、各人の問題意識に従って課題が設定され、研究が実践されます。ナイチンゲールは著作の中で「生活は心を目覚めさせて問いを抱かせ、心は知性を目覚めさせてその問いに答えを要求する」というオーギュスト・コントの言葉を引用しています。その真意は、実際に存在する問題を現象学的認識論で受け止め、現存する問題について認識するのみにとどまらず、知性の働きを通して問題解決の一助となりうる研究実践が求められるという事であろうと考えています。

自分の生きている社会に対して全く何の問題意識も持っていない看護職者には、看護の歴史に対する課題意識も生まれてきませんし、知性がなければ、調査の中で客観的な根拠を示し、その史実に基づいて論理的な考察を行い、他者を納得させられる研究には成り得ないでしょう。したがって、歴史研究には、新たな資料発掘という側面と、先人の業績を踏まえて研究を批判あるいは深化・発展させつつ、その本質探求が歴史学や歴史哲学にもなりえ、看護学の深化と成熟につなげる大きな役割があると私は考えています。

会員の皆様がそれぞれのお立場で課題発見とその解決の為の糸口として看護歴史研究に邁進されますよう祈念してご挨拶とさせていただきます。

平成30年1月元旦

日本看護歴史学会第31回学術集会を終えて

学術集會会長 田中 幸子（東京慈恵会医科大学）

平成29年8月18日（金）、19日（土）、東京慈恵会医科大学医学部看護学科において、学術集会を開催することができました。関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

今年の夏は雨の日が多く、天候が心配でしたが、傘の心配をすることもありませんでした。開催日程が他の大きな学術集会と重なっていたにも関わらず192名の方々にご参加いただきました。一般研究発表は、講演が9演題、示説が、17演題、テーマセッションが1演題でした。

シンポジウム「准看護師（師）制度の政策過程を考える」では、シンポジストとして野村陽子先生（岩手医科大学）、似田貝香門先生（東京大学）、林千冬先生（神戸市看護大学）にご登壇いただき、指定討論者として中島幸江先生（全国准看護師看護研究会）にご講演をいただきました。ディスカッションでは会場から元日本看護協会関係者の方々、准看護師学校に勤務されておられる方などからご発言をいただき、准看護師制度の政策過程、看護教育について熱のこもった議論が展開されました。様々な講演や演題発表も抱えた中でスケジュール上、時間が足りなかったようにも思われました。また、日を改めてディスカッションができればと考えています。

渡邊英徳先生（首都大学東京）には、「データを紡いで社会につなぐ、記憶を伝えるデジタルアーカイブス」というテーマでご講演いただき、地元の高校生が高齢者にインタビューする様子から、歴史の継承の重要性を私たちに示していただきました。梅崎修先生（法政大学）には「オーラルヒストリー・メソッドが拓く歴史研究の可能性」というテーマで、ご講演いただき、具体的なオーラルヒストリーの手法を教えてくださいました。芳賀佐和子先生（東京慈恵会医科大学）には「メアリー・E・リードと慈恵の初期看護教育」というテーマで近代的な看護教育の始まりをご講演いただきました。

今年は学会設立30年の記念すべき年でした。30周年記念セッションでは山本捷子先生（元日本看護歴史学会理事）、高橋みや子先生（日本看護歴史学会理事、宮城大学）から本学会の発起の経緯を発表していただきました。なつかしいお写真がたくさん出され、発起人の皆様の看護の歴史を残そうという熱い思いが学会創設につながったことがよく理解できました。さらに理事会セッション2では鈴木紀子先生（順天堂大学医学部医史学研究室）から、「今、改めて看護歴史の研究方法を学ぶ（第3回）－看護技術史－」というテーマで、看護歴史の研究方法についてご説明いただきました。このシリーズは参加者の関心の高い看護研究の進め方や方法論を説明するもので、平成27年から開講しているものです。これから看護歴史の研究を始めたいという方には必見のセッションでした。そして理事会セッション3として、稲垣絹代先生（聖泉大学）から「戦争と沖縄の看護」をテーマにご講演いただきました。稲垣先生は平和について考える科目を作りたいと考え、1年生全員が沖縄戦の戦跡をめぐるケアリング文化実習や、辺野古新基地建設をなぜ反対しているのか、などを学生の教育に取り入れ、自らも運動に加わっているとのことでした。看護教育のあり方について考えさせられるご講演でした。

改めまして皆様のご協力に感謝申し上げます。



シンポジウム

看護歴史学会創立30周年記念であった第31回学術集会に参加して

名原 壽子（看護史研究会・元厚生省看護研修研究センター）

日本看護歴史学会創立30周年の記念すべき学術集会のテーマを「看護の政策過程の検証－歴史から看護のエビデンスを探る」とした学術集会会長の田中幸子氏は、自らの戦後看護政策研究の経緯と成果を発表すると共に、看護の政策過程の検証として准看護師（師）制度をテーマにシンポジウムを企画されました（以下、准看護師制度とする）。

シンポジストに似田貝香門氏、野村陽子氏、林千冬氏を起用し、ベテラン3人の先生方の問題提起で始まり、指定討論者の中島幸江氏、フロアーとの議論が活発に行われました。

コメディカルの職種にはない「中卒」で入学可能な准看護師制度の廃止は、看護職能の悲願として長年取り組まれながら、医師会の反対に阻まれて悲願達成に至っておりません。廃止が駄目ならせめて養成停止に取り組めないかと当時の久常節子看護課長が似田貝氏という良き協力者を得て、他に例をみないといわれる悉皆調査が行なわれました。今回、似田貝氏は調査内容の緻密な組み立て、「検討会報告」がつけられた経緯を詳細に示されました。その結果は、当時のマスコミが、非近代的な雇用の実態、お礼奉公、無資格者の医療行為などと華々しく報道しましたし、日本看護協会機関誌『看護』でも特集が生まれ、当時の見藤隆子看護協会長と小泉信三厚生大臣の対談で、「21世紀の早い段階を目的に」と語られ、養成停止が間もなく実現すると多くの方が期待致しました。しかし、政治的圧力で准看護師温存の2つの検討会に置き換わり、あの熱気に満ちた機運は遠のいています。

“当事者こそが歴史を切り拓く主体である”との立場から、支援をし続けている林氏は、1995年「全国准看護師看護研究会」を組織化し、職能団体をはじめ看護界の関心が遠ざかったとみなされる中で、地道に養成停止に向けた活動を続けていることを紹介されました。

野村氏は、政策過程の分析で政策に到らなかった理

由の一つに国民的問題になっていなかったことを指摘されましたが、このことは1987年の「看護制度検討会報告書」で2年かけて合意が得られたかに見えたにも拘らず、廃止と存続の両論併記になったことを嘆いた市民代表であった作家の中島みち氏が既に指摘したことでした。中島氏は、国民が質の高い良い看護を求めることに変わらねば強い医師会の圧力には抗せないとの決意から、「看護の日」制定に尽力されたという経緯がありますが、「看護の日」の深い意味を知る人が少ないのは残念です。准看護師制度の政策過程の「可視化」はまだ不十分で今後更なる学会の取り組みが会場からも期待されました。今回シンポを通して我々看護職皆が、特に政策過程に関わる看護専門官は、国民を動かす取り組みをしなければという思いを強くさせられました。紙面の都合上、他の企画の感想を紹介できませんが、盛沢山で、同時開催のため参加できないものが増えてきている現状を考えると、2日目の午後開催の企画も今後検討が必要ではないかと感じました。



懇親会



参加者の様子

六史学会報告

丸山マサ美（九州大学大学院医学研究院）

平成29年12月16日、六史合同12月例会が順天堂大学にて開催され、90名が参加しました。司会は、佐賀大学地域学歴史文化研究センター青木歳幸（日本医史学会）理事により進行され、各学会代表六題の研究報告が行われました。本学会代表は、鈴木紀子理事が演題「陸軍看護制度の成立過程－橋本綱常の上申を中心に－」を報告され、高い評価を受けました。その後、懇親会が開催され、六史学会代表者挨拶、各学会近況報告が行われ、日本看護歴史学会は、今年30年を迎えた事を報告しました。六史各学会の更なる発展の為には、情報交換、協力支援体制の充実が必要不可欠である事が確認され、近況報告には、順天堂大学医学部

医史学研究室酒井シヅ先生が、日本の医史学研究の発展に貢献されたとして、8月11日、“The Basham Medal Awards 2017”をドイツで受賞された吉報が和やかな人的交流の中で紹介されました（<https://www.ictam2017.uni-kiel.de/en/arthur-l-basham-medal>）。



酒井シヅ先生と私
（六史学会懇親会にて順天堂医院内撮影）

日本看護歴史学会第32回学術集会ご案内

ナイチンゲールの看護のこころ、今に伝える

—看護・福祉思想と教育—

日 時：2018年（平成30年）8月24日（金）・25日（土）

会 場：広島文化学園大学看護学部呉阿賀キャンパス

学術集会会長：佐々木秀美（広島文化学園大学副学長 看護学部看護学科教授）

日本看護歴史学会第32回学術集会をお引き受けしました佐々木秀美と申します。F・ナイチンゲール研究と同時に、我が国の看護教育の歴史的変遷について研究を始めてから数十年が経過しました。19世紀中庸、ナイチンゲールが創設した看護という仕事、粗悪であった病院看護を良くし、地域の方々への看護職の地域貢献は、地域の方々が“健康”で幸せに暮らすためのいわゆる地域福祉貢献活動でありました。会員の皆様は様々な課題意識を有し、研究を推進しておられると推察申し上げます。学術集会の重要な責務は会員の皆様の研究活動発信とそこに集う方々との意見交換をしつつ、新たな問題解決の道筋を発見していく過程であると思います。そこで、教育講演と会員の皆様の多様な歴史研究を通しまして、今日、問われております医療・福祉・教育の協働という言葉の“究理実践”に向

けての検証・検討の機会にし、活発な議論ができますようにと懸命の努力をいたしております。

さて、日本看護歴史学会第32回学術集会は広島県呉市での開催となります。広島と言えば、平和記念公園内に戦争の傷跡として原爆ドームが厳然として残っており、核兵器被害の悲惨な体験をした歴史的な場所です。平成30年は戦後72周年です。戦争体験者も少なくなっている今日ですが、広島で日本看護歴史学会会員の皆様の歴史検証を通して、私たちの日常生活の安寧と幸福実現のために看護ができることは何かを、原点に戻って論じ合える機会になればと考えています。呉市は広島駅から呉線で45分のところに位置しております。少々、離れた地域での開催ではありますが、多くの方のご参加をお待ちしております。

1. プログラム

8月24日（金）

- 会長講演：「ナイチンゲール看護のこころ今に伝える—看護・福祉思想と教育—」
- 教育講演Ⅰ：「看護の歴史パノラマから見えてくるもの
—看護史の古いスライド（ICRC作）を手がかりに—
真壁 伍朗（新潟大学 名誉教授）
- 教育講演Ⅱ：「長谷川保の看護・福祉思想とその精神（こころ）の継承」
平井 晃（社会福祉法人 十字の園 理事長）
- 教育講演Ⅲ：「歴史と責任—科学者は歴史にどう責任を取るか」
小笠原道雄（広島文化学園大学 教授）

8月25日（土）

- 教育講演Ⅳ：「広島県における原爆医療の歴史的変遷」
鎌田 七男（広島大学 名誉教授、
被ばく高齢者事業団 元理事長）

2. 一般演題・テーマセッション登録について

1) 一般演題（口演・示説）

- ・日頃の皆様の研究を発表する機会として下さい。
- ・発表は看護の歴史に関する研究となります。

2) テーマセッション

交流したい、議論を深めたいテーマや研究を発表していただき、参加者の方々と討論をしていただくセッションです。時間は80分、テーマセッション司会担当者が、発表・討論方法を調整します。



椿（呉市の花）

3. 演題登録方法

日本看護歴史学会第32回学術集会ホームページ（<http://jsnh32.umin.jp>）からのオンライン登録のみとなります。現在、WEBで「日本看護歴史学会第32回学術集会」をご案内中です。

日本看護歴史学会第32回学術集会から検索していただき、登録画面からお申し込み下さい。

[演題名登録締切] 2018年1月24日（水）～4月3日（火）迄

[抄録提出締切] 2018年1月24日（水）～5月8日（火）迄

※ WEBでの登録方法がお分かりにならない方は、第32回学術集会事務局までお問合せください。

4. 参加登録

演題登録と同じくオンライン登録になります。皆様のご参加をお待ちいたします。

登録受付期間：2018年1月24日（水）～5月24日（木）

※ オンライン登録ができない方は、学術集会事務局までお問い合わせください。

大会参加費

参加費	会員	非会員	学生（抄録集なし）
事前申込	7,000円	8,000円	—
当日受付	8,000円	9,000円	500円

※ 学生（大学院生は除く）は当日学生証をご提示の上、受付にてお申込みと参加費のお支払いをお願い致します。学生参加者には抄録誌の配布はありません。

5. その他

懇親会参加：5,000円（参加登録時にオンラインにてお申込みください。当日申込も可能）

8月24日（金）のお弁当注文：1,000円（参加登録時にオンラインにてお申込みください）

6. 会場（呉阿賀キャンパス）へのアクセス

■ JR：広島駅から呉線乗車（各駅停車または安芸路ライナー）45分

※ 快速は、運行時間にご注意ください

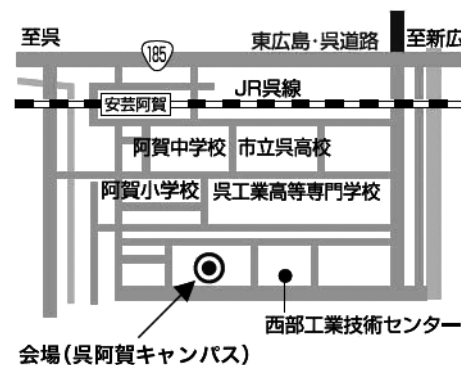
阿賀駅下車：徒歩8分 またはタクシー6分

呉駅下車：タクシー15分

■ バス：広島バスセンター発 クレアライン

呉本通り6丁目下車 タクシー約10分

または阿賀駅下車



理事会報告

2017年8月17日（木）、新体制による理事会が開催されました。

1. 理事長、副理事長、指名理事の選出

新理事長に佐々木秀美氏、副理事長に丸山マサ美氏が選出された。また新理事長より、指名理事として加藤重子氏（広島文化学園大学）、岡田京子氏（広島文化学園大学）が推薦された。今後、学会事務局は広島（広島文化学園大学）に設置、理事会は東京（日本赤十字看護大学）もしくは広島で行うこととなった。

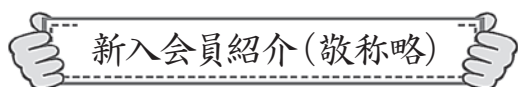
なお、学会事務局業務については平成30年1月から広島文化学園大学に移管する旨、決定した。

2. 委員会担当の分担

（○は委員長）

編集委員会	○鷹野 朋実理事	刀根 洋子理事	田中 幸子監事
研究活動推進委員会	○鈴木 紀子理事	丸山マサ美副理事長	屋宜譜美子理事
企画会報委員会・広報委員会	○小田 正枝理事	三上 れつ理事	山崎 裕二理事
特別委員会	○佐藤公美子理事	城丸 瑞恵理事	
理事会セッション担当	川嶋みどり監事	屋宜譜美子理事	
六史学会担当	丸山マサ美副理事長		
35周年記念誌担当	鷹野 朋実理事		

注）委員会の分担は、本理事会後に書面理事会でさらに検討され承認されたものです。



新入会員紹介(敬称略)

*（ ）内は会員番号 平成29年6月～平成29年10月入会

田中 千尋 (17018)	伊藤 菜穂 (17019)
島村 圭一 (17020)	山岸 智弘 (17021)
林 由希 (17022)	遠藤 花子 (17023)
井上 清美 (17024)	関永 信子 (16725)
松井千恵子 (17026)	小塩美枝子 (17027)
浅香真由巳 (17028)	

■学会誌投稿論文の送り先

投稿論文の送り先は、以下の編集委員会となります。
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学
日本看護歴史学会編集委員会
鷹野 朋実 宛

編集後記

理事会が新体制になりましたので、これまで学会運営にご貢献いただきました諸先生方のお考えを引き継ぎ、歴史学会らしい会報作成ならびにホームページの更新に努めて参りたいと思います。
(企画会報・広報委員会)

お知らせ

■事務局から

平成29年度会員動向(平成29年11月末現在)

1. 会員数	325名
2. 入会者数	28名
3. 退会者数	8名

■事務局移転のお知らせ

会員管理事務局が2018年1月から移転となります。住所変更・退会届等の連絡は下記にお願いいたします。
〒737-0004 広島県呉市阿賀南2-10-3
広島文化学園大学内 加藤 重子/岡田 京子宛
TEL:0823-74-6000 FAX:0823-74-5722
MAIL:kato@nbg.ac.jp

日本看護歴史学会会報 第69号

企画・編集 三上 れつ (中部大学)
小田 正枝 (徳島文理大学大学院)
山崎 裕二 (日本赤十字看護大学)

発行責任者 鷹野 朋実 (事務局会報担当)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒737-0004
広島県呉市阿賀南2丁目10-3
広島文化学園大学看護学部内
加藤 重子/岡田 京子
TEL 0823-74-6000 (代表)
FAX 0823-74-5722
e-mail kato@nbg.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>